

# 平成 2 2 年度事業報告書

## ・事業の概要

財団法人協済会は、北海道大学における医学、歯学及び医療に関する研究及び職員、学生の学事研修を奨励助成し、並びに北海道大学病院の患者の慰安及び支援を行い、もって医学の振興と健全な社会文化の向上発展に寄与することを目的として設立された文部科学省認可の公益法人であります。現在は特例民法法人と位置づけされております。

今年度の大学病院支援事業等は、本財団の設立目的に沿って患者、職員等必需品供給事業である病院内における売店、食堂、病棟設備貸付サービス等からもたらされる果実をもって、毎年恒常的に実施している医学、歯学及び医療の研究に関する奨励・助成、患者の慰安・支援、職員学生の学事研修に対する奨励・助成等を実施しました。

さらに、今年度は病棟ディルム等のテレビ更新経費、歯科診療センターに監視カメラ装置増設経費の特別助成及び外来ホールに設置していた大型水槽の更新等の特別寄贈も実施しました。

また、患者・職員等必需品供給事業については、平成 2 3 年 1 月に病棟テレビ等設備貸付サービスが公募競争契約によって新規民間業者の取扱いとなったことから、従来まで当財団が担ってきた病室テレビ・ロッカー式冷蔵庫・洗濯機・乾燥機の貸付サービスである用達事業からの撤退、これに伴って 3 月末でサービスコーナー・薬店ばぶらを閉店しました。

しかし、院内における売店、食堂は、今年度も「商品売る・食事食べてもらうだけでなく憩いと安らぎ・潤いをテーマにした店作り」の強化を図りながら、大学病院等に対する支援事業ばかりでなく、利用するお客様への利益直接還元を行い、商品及び食事等の価格をなるべく安価で、良品質なもので提供する努力をしました。

さらに、委託業務の理容・美容、牛乳販売、クリーニング、歯科材料販売及びコーヒーショップ等の協済会全体事業を「清潔で、明るく、親しみやすい、サー

ビスの行き届いた営業」を目標にし、お客様の立場に立って「思いやりと優しさ」と「安全・安心」を与える取り組みをしました。

また、院外調剤薬局は、お客様へのサービス向上のためクレジットカードの導入や憩いと安らぎを与える店舗環境作りの取り組みをしてきました。

北海道大学鈴木名誉教授のノーベル賞受賞は、売店、食堂にニュース報道の新聞を掲示し、利用するお客様に見てもらい北海道大学の快挙を共に喜び分かち合いました。

東日本大地震災害では、一部商品の流通の滞りがありましたが、患者、職員等必需品供給事業には大きな支障がなかったため、売店・食堂において東北地方の被災地の方々のために支援募金活動及び節電へ協力の取り組みをいち早く実施しました。

このような事業運営を実施してきましたが、今年度事業収益は、販売収益においてはお客様への利益直接還元、薬店ぼづら閉店に伴う売上減、薬品収益は薬価基準のマイナス改定に伴う売上減、用達収益はサービスコーナーの閉店に伴う売上減などで減収となっています。

さらに預金金利の低下により基本財産等の資金運用に伴う利息配当の落ち込みもあり収益全体は前年度を大幅に下回りましたが、費用の面において、各部門の商品等仕入の工夫、効率化により仕入費が大きく減少したことにより、事業全体の損益では約1千1百万円の利益となりました。

よって、今年度事業全体については、事業計画に基づいて概ね計画通り実施され、本会の目的を達成することができました。

貸借対照表は、下記のとおりです。

摘 要	資産額	負債額	正味財産額
一 般 会 計	901,254,783 円	216,139,431 円	685,115,352 円

正味財産増減計算書は、下記のとおりです。

摘 要	経常(外)収益額	経常(外)費用額	当期一般正味財産増減額
一 般 会 計	1,276,258,587 円	1,265,395,266 円	10,863,321 円

財産目録は、下記のとおりです。

摘 要	資産額	負債額	正味財産額
一 般 会 計	901,254,783 円	216,139,431 円	685,115,352 円

収支計算書(一般会計)は、下記のとおりです。

摘 要	収入額	支出額	収支差額
事業活動収支の部	1,276,258,587 円	1,295,368,527 円	19,109,940 円
投資活動収支の部	79,962,401 円	64,658,602 円	15,303,799 円
財務活動収支の部	0 円	0 円	0 円
当期収支差額			3,806,141 円

なお、キャッシュ・フロー計算書は、17頁に示したとおりです。

## ・事業の内容

### 大学病院支援事業等経費【事業総額 20,598,043円】

北海道大学の医学・歯学・医療研究のために奨励・助成及び病院で実施されているふれあいコンサート等、温室・外来待合室の植栽、鯉の水槽維持管理等患者サービスに関する助成等を行い、利用者にひとときの潤いと安らぎをもっといただけるよう事業を実施しました。

#### 1. 医学の研究に関する奨励及び助成：事業額 7,200,000円

本会設立の主要目的の一つである医学の研究に関する奨励及び助成には、従来からその目的遂行に努力してきました。

今年度は、前年同様医学研究費を北海道大学病院に助成しました。なお、職員及び学生の学事研修に対する奨励である北海道大学病院の教育奨励費は、大学病院の要望により今年度も医学の研究に関する奨励費に含めて助成されております。

## 2. 患者の慰安及び支援：事業額 12,017,663円

北海道大学病院の患者の慰安及び支援を図ることも本会の主要目的の一つで、今年度は下記とおり実施しました。

毎年患者サービス維持に必要な経費を支援しておりますが、今年度はさらに特別助成として「病棟ディルム地上デジタルテレビ購入経費」の助成、「歯科診療センター監視カメラ増設経費」への助成他、既設水槽のひび割れにともない「大型水槽」の寄贈、産科オリジナル作成の妊産婦さん用保健指導本「たいようの子」500冊を寄贈、妊産婦さん等に無償配布されています。

- (イ) 患者サービス充実経費助成
- (ロ) 温室管理経費助成
- (ハ) 温室花鉢植栽経費助成
- (ニ) 外来植木鉢借上管理経費助成
- (ホ) 患者慰安花卉展経費助成
- (ヘ) 患者慰安写真展経費助成
- (ト) ボランティア経費助成
- (チ) ふれあいコンサート及び看護の日等行事実施経費助成
- (リ) 患者慰安淡水魚等維持管理経費助成
- (ヌ) 精神科神経科病棟生け花及びファミリーハウス盛花等経費
- (ル) 入院患者慰安用品贈呈経費助成
- (ヲ) BGM放送に使用するCD購入経費助成
- (ワ) 精神科神経科入院患者小遣い管理経費助成
- (カ) 霊安室運営支援経費

## 3. 職員及び学生の学事研修に対する奨励：事業額 1,190,000円

北海道大学医学部、歯学部及び北海道大学病院の学生並びに職員の学事研修等に対して、下記のとおり助成しました。

(イ) 教育奨励費助成

(ロ) 看護部研修会発表原稿収録集経費一部助成

#### 4. その他支援事業費助成：事業額 190,380円

本会設立の目的を達成するためにその他必要な事業として下記のとおり助成しました。

(イ) 北大病院保育園ポブラ行事実施経費助成

#### 患者、職員等必需品供給事業経費

**【事業総額 1,116,087,148円】**

北海道大学病院の患者、職員、学生及び見舞人等の皆様の利便を図るため、利用者ニーズや診療科等からの要望に合わせた商品販売、多くのメニューを取り揃えた「安全・安心」な食事を提供できる食堂等の事業を実施しました。

院内の売店・食堂は単に「商品を買う」「食事をする」場所というだけでなく、病院に来られる患者さん等に少しでも「憩いと安らぎと潤い」を季節毎に感じていただける店舗作りを実施しました。

特に去年は「音」を中心とした取り組みでしたが、今年は「光」をテーマに商品棚にスポットライト、蛍光灯新設、食堂メニューショーケースへの照明増設、クリスマスにはLEDライト点灯による効果照明などへの取り組みを行いました。

#### (イ) 販売業務

売店・薬店では「清潔で、明るい、サービスの行き届いた店舗作り」を心がけ、商品の配置の工夫や、季節感漂う憩いと安らぎを届ける催しコーナーの設置等を行い、「商品を売るだけでなく憩いと安らぎ・潤いをテーマにした店作り」の強化をしました。

また、販売取扱い商品を充実させるとともに、「お客様への直接還元」として商品をスーパー並の安さで提供するため特売品等を多数取り揃え、価格の低廉化に向けた取り組みを行いました。

コンビニ負けない取り組みの一環として調理品コーナーを充実させ、食堂と売店との協力連携による新商品「焼きたてパン・チキンナゲット」、従来から行っている肉まん・あんまんをレジ廻りで展開し、利用者の利便性・サービスの向上に努めました。

車椅子等の患者さんへの買い物介助等にも積極的に取り組み、入院等サポート商品説明・取扱いの充実も行いました。

売店は、病棟への移動販売や精神科神経科への商品のお届け、病棟一時閉鎖に伴う配達等の患者サービスの向上に努め、さらに北海道大学認定商品いわゆる「北大グッズ」の取扱い及び広報用キャンパス・ガイド・マッ

プの配布等に積極的に取り組み、北海道大学病院だけでなく北海道大学全体への貢献にも努力しました。

サービスコーナー・薬店においては、患者サービスの観点から診療科から要望が出される医療用用具・用品等の十分な在庫を行い、いつでも患者に供給できるよう、かつ適正価格で販売するよう努力しました。

しかし、北大病院が病棟設備サービスを公募式競争契約での実施を図ったことにより、病室テレビ・ロッカー式冷蔵庫・洗濯機・乾燥機の病棟設備貸付サービスからの撤退、サービスコーナー・薬店ぼぶらの廃止を決定し、薬店は1月31日、サービスコーナーは3月31日をもって閉店しました。

このため、サービスコーナー・薬店で取り扱っていた付添用寝具貸出サービスの受付、治療用材料の販売は、売店インフォメーションコーナーを模様替し、継続して売店での受付・販売を行えるようにしました。

#### (ロ) 食堂業務

食堂では北海道大学病院の患者、職員、学生及び見舞人等の皆様の栄養管理の一翼を担っているとの認識を持ち、カロリー表示メニュー等を行い、かつ季節感漂うバラエティに富んだメニューの工夫・提供及び食材の質の向上に努力するとともに、食品管理・衛生管理を徹底し、利用者が「安全・安心」と感じることでできる食堂となるよう努力しました。

また、今年度は、ワンコインメニューやミニミニセットの提供、特にコーヒーをホット・アイスともに一杯100円での提供を実施し、少しでも「美味しい・安い」を感じてもらえる取り組みを行いました。

#### (ハ) 薬品業務

北海道大学病院の門前薬局として、院外処方箋により調剤業務と服薬指導を行うとともに、提供薬剤の種類を拡大し、さらに薬剤師の研修等に積極的に参加させ、北海道大学病院を訪れる外来患者の利便を図るよう努力しました。

なお、病院前に門前薬局が新たに増えたり、二年に一回行われる薬価改正による減収で薬局経営は、年々厳しい状況となっておりますが、長期投薬の増加から一回の支払額が増え患者さんの負担が大きくなっているためクレジットカードの導入を図り、サービスの改善に努めました。

#### (ニ) 用達業務

入院患者へのサービス向上のため、貸し付けテレビ及び洗濯機・乾燥機等のメンテナンスを充実させるとともに、サービスコーナーにおいて下記の業務を行い、利便を図ってまいりましたが、平成23年1月からは北大病院が病棟テレビ等設備サービスを公募式競争契約での実施を図ったこと

により(1)と(5)の業務を除いて病棟設備貸付サービスから撤退し、サービスコーナーは3月末で閉店しました。

(1)入院患者付添人への簡易ベッド及び寝具の貸付 (2)特別病室の電話貸付 (3)プリペイドカード使用によるテレビ・洗濯機及び乾燥機の貸付 (4)コールドロッカーの貸付 (5)公衆電話の設置 (6)電報の受付

**(ホ) 福利厚生施設として、本会で直接経営することが困難な下記の専門業務を委託し、業者に対して指導監督に努め利用者の利便性を図りました。**

(1)理容業務 (2)美容業務 (3)乳製品販売業務 (4)歯科材料販売業務 (5)洗濯物取扱業務 (6)コーヒーショップ(スターバックス)

**(ヘ) ファミリーハウス**

ファミリーハウスについては、北大病院の要請により、施設設備等の管理及び宿泊手続き等は病院が実施し、本会では宿泊者の施設利用案内及び宿泊室の清掃・維持管理業務等を分担していますが、利用する付添家族のために居心地の良さや利用しやすい施設環境維持に努めました。

なお、ファミリーハウス備え付け新聞の購入や玄関の盛り花等を本会が無償で提供しており、経費の持ち出しにより管理業務を行っています。

本会では、この管理業務は病院財団の使命と考え、施設設置当時から少しでも宿泊者の心の安らぎになればと採算を度外視して管理業務を実施しています。

**(ト) 精神科預かり金管理業務**

この業務は、本来病院が行う業務であります。公金以外の現金の取扱が病院では難しいことから本会が無償で行っています。

今年度においても精神科入院患者ご家族から、患者が入院生活上不便を来さないよう依頼を受けて、日用品の購入、嗜好品の購入、理容・美容等のいわゆる「お小遣い」をお預かりして、現金管理及び業者の支払い等を行って、患者サービスの充実に努めました。

なお、この業務は、患者及びご家族のプライバシーに関わる問題を含んでいることから、本会では専任の職員に担当させ、また管理に必要な台帳類、諸伝票等の作成経費等は本会が負担しています。さらに「お小遣い管理等の取扱要領」を作成し、病院との連携を図っています。

**(チ) その他**

患者、職員学生及び見舞い人等の利便性を考慮し、FAX及びコピー機の設置、宅配便取次ぎ業務を行っており、今年度も継続して行いました。

また、病院より依頼のあった外来棟及び病棟のマスク自動販売機による販売、夏季の団扇の無料配布、クリスマスの時期に実施している入院患者全員へのプレゼントサービスを継続して実施しました。

さらに院内感染防止対策講習会への積極的参加やクリスマスコンサート等の院内催事への協力を行い北海道大学病院と一体となった患者サービスの実施に努力しました。